
中心市街地活性化基本計画 平成 28 年度最終フォローアップ報告

平成 29 年7月

内閣府地方創生推進事務局

目 次

- I. 中心市街地活性化基本計画 最終フォローアップの概要 …………… 1 ページ
- II. 目標指標分野別分析結果の概要 …………… 2 ページ
 - (1) 集計結果
 - (2) 取組の進捗状況
 - (3) 目標達成の状況
 - (4) 基準値からの改善状況
- III. 計画期間終了後の中心市街地の状況 …………… 6 ページ
 - (1) 進捗・完了状況及び活性化状況について
 - (2) 中心市街地活性化協議会の評価について
 - (3) 市民からの評価、市民意識の変化について
- IV. 好取組事例 …………… 8 ページ
- V. 取組の進捗・完了状況及び目標達成状況に関する各市からの報告 …… 12 ページ

I. 中心市街地活性化基本計画 最終フォローアップの概要

最終フォローアップについて

- 認定を受けた基本計画では、各市が複数の目標を掲げている。各目標においては、その達成状況を的確に把握できるよう、定量的な指標（目標指標）を設定している。
- 当該基本計画については、各市自ら計画期間満了後に、取組（事業等）が予定どおり進捗したのか、目標は達成されたのか等を自己評価（最終フォローアップ）として報告して頂いている。
- 平成28年度の最終フォローアップの対象となる11市の11計画では、合計33の目標指標が設定されており、各種事業等をもって目標達成に向けた取組が行われてきたところであり、その評価結果をとりまとめる。

平成28年度最終フォローアップ対象計画

11市 11計画 33指標※（詳細はP.12に掲載）

※平成29年6月末までに、141市212計画が内閣総理大臣の認定を受けている。

【参考：平成27年度】11市 11計画 22指標

取組の進捗状況と目標達成状況に関する集計結果

- 最終フォローアップ対象の全33指標について下記の分類により集計を行った。

<取組の進捗状況及び目標達成状況の分類>

- A（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えている。）
 - a（計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えている。）
- B（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えたが、目標値には達していない。）
 - b（計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。）
- C（計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値及び基準値にも達してない。）
 - c（計画した事業は予定どおりには進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。）

	事業は概ね予定どおり進捗・完了	事業は予定どおりには進捗・完了しなかった
目標達成	A : 13指標(40%) (平成27年度:8指標(36%))	a : 1指標(3%) (平成27年度:1指標(5%))
目標は未達成だが、計画当初より改善	B : 8指標(24%) (平成27年度:3指標(14%))	b : 1指標(3%) (平成27年度:0指標(0%))
計画当初より悪化	C : 9指標(27%) (平成27年度:9指標(41%))	c : 1指標(3%) (平成27年度:1指標(5%))

II. 目標指標分野別分析結果の概要

各市が最終フォローアップを行った目標指標を5分野に分類し、各分野の取組の進捗状況、目標達成状況、基準値からの改善状況等について分析した。

(1) 集計結果

目標指標分野別集計結果

- 各市が最終フォローアップを行った目標指標に係る取組の進捗・完了状況及び目標達成の状況等について、以下の①～⑤の5つに分類した上で集計を行った。

達成状況	全体	① にぎわいの創出	② 街なか居住の推進	③ 経済活力の向上	④ 公共交通の利便の増進	⑤ その他
A	13(40%)	7	2	1	3	0
a	1(3%)	1	0	0	0	0
B	8(24%)	4	3	1	0	0
b	1(3%)	1	0	0	0	0
C	9(27%)	7	2	0	0	0
c	1(3%)	0	1	0	0	0
合計	33	20	8	2	3	0

目標指標分類	主な目標指標	主な取組例
① にぎわいの創出	歩行者・自転車通行量、観光・文化施設入込客数 等	観光情報センター整備、企業立地促進事業、歩行空間整備、子育てセンター運営事業、商業施設・多目的交流施設整備 等
② 街なか居住の推進	居住人口、社会増加 等	市街地再開発事業、まちなか定住促進事業 等
③ 経済活力の向上	空き店舗数	空き店舗等活用事業、情報発信拠点整備事業、イベント開催 等
④ 公共交通の利便の増進	路面電車乗車数、レンタサイクル利用回数 等	おでかけ定期事業、自転車利用推進事業 等
⑤ その他		—

(2)取組の進捗状況

- 取組（事業等）の進捗が順調である^(注1) 目標指標は全体の91%である。（平成27年度 91%）
- 「経済活力の向上」、「公共交通の利便の増進」に関する目標指標は、取組の進捗が順調である目標指標の割合（取組順調率）が全体平均よりも高い^(注2)。
- 一方で、「街なか居住の推進」等に関する目標指標の取組順調率は、全体平均よりも低い^(注2)。

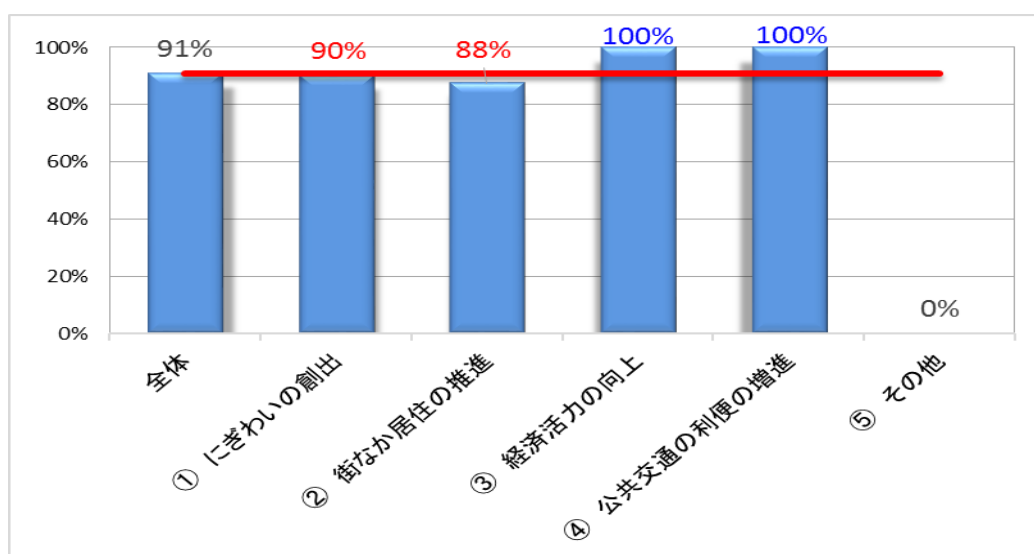
取組の進捗状況に関する分析結果

<各目標指標分野の取組の進捗状況の割合>

	全体	① にぎわいの創出	② 街なか居住の推進	③ 経済活力の向上	④ 公共交通の利便の増進	⑤ その他
A+B+C	30	18	7	2	3	0
a+b+c	3	2	1	0	0	0
合計	33	20	8	2	3	0
取組順調率	91%	90%	88%	100%	100%	—

$$\text{取組順調率} = (A + B + C) / (A + a + B + b + C + c)$$

<目標指標分野別のA、B及びCの割合>



(注1) 取組の進捗状況及び目標達成状況の分類(P1参照)のうち、「取組が概ね予定どおり進捗・完了したものはA、B及びCが、「取組が予定どおりには進捗・完了しなかったものはa、b及びcが、それぞれ相当する。

(注2) 全目標指標のうちA、B及びCが選択された割合（取組順調率）が91%であったため、これと比較して数値が大きい（小さい）場合には、「取組順調率が全体平均よりも高い（低い）」としている。

(3)目標達成の状況

- 目標を達成した^(注1) 目標指標は全体の42%である。(平成27年度 41%)
- 「公共交通の利便の増進」等に関係する目標指標は、目標を達成した目標指標の割合(目達達成率)が全体平均よりも高い^(注2)。
- 一方で、「街なか居住の推進」等に関係する目標指標の目標達成率は、全体平均よりも低い^(注2)。

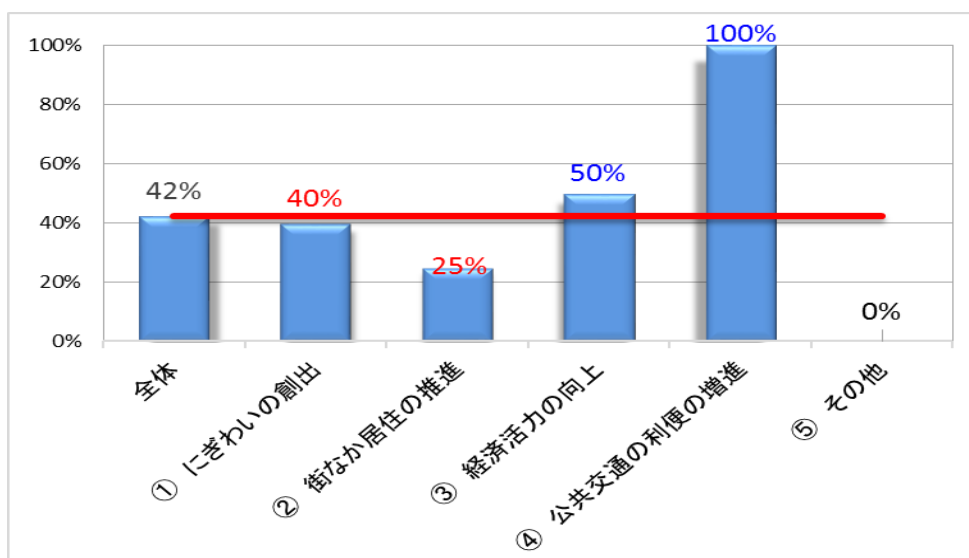
目標達成状況に関する分析結果

<各目標指標分野のA及びaの割合>

	全体	① にぎわいの創出	② 街なか居住の推進	③ 経済活力の向上	④ 公共交通の利便の増進	⑤ その他
A+a	14	8	2	1	3	0
B+b+C+c	19	12	6	1	0	0
合計	33	20	8	2	3	0
目標達成率	42%	40%	25%	50%	100%	—

$$\text{目標達成率} = (A + a) / (A + a + B + b + C + c)$$

<目標指標分野別目達見込率の比較>



(注1) 取組の進捗状況及び目標達成状況の分類(P1参照)のうち、「目標達成したもの」はA及びaが、「目標未達成のもの」はB、b、C及びcが、それぞれ相当する。

(注2) 全目標指標のうちA及びaが選択された割合(目標達成率)が42%であったため、これと比較して数値が大きい(小さい)場合には、「目標達成率が全体平均よりも高い(低い)」としている。

(4) 基準値からの改善状況

- 現況（実績値）が基本計画策定時の状況（基準値）から改善している^(注1)
目標指標は全体の70%である。（平成27年度 55%）
- 「経済活力の向上」、「公共交通の利便の増進」に関する目標指標は、実績値が基準値から改善している目標指標の割合（基準値改善率）が全体平均より高い^(注2)。
- 一方で、「にぎわいの創出」、「街なか居住の推進」に関する目標指標は、基準値改善率が全体平均よりも低い^(注2)。

基準値からの改善状況に関する分析結果

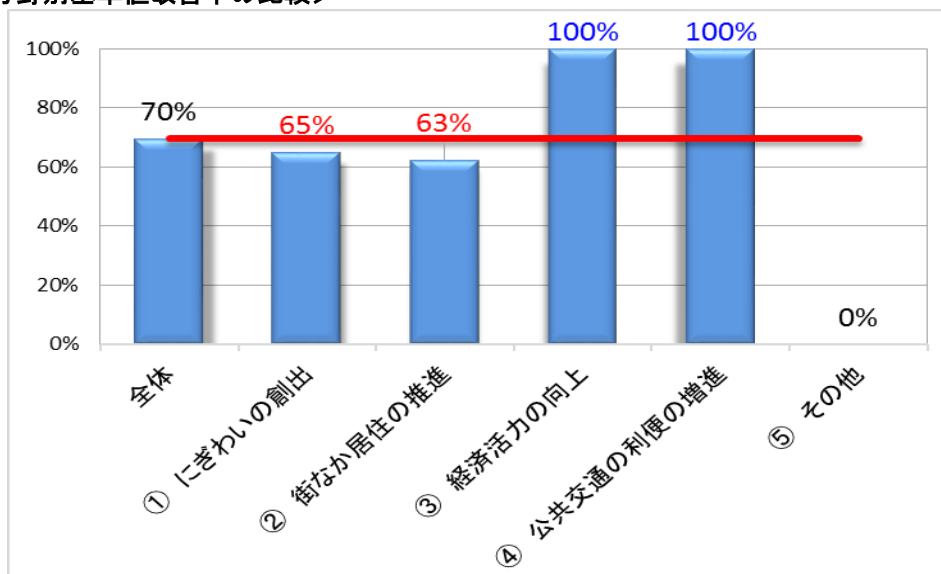
<各目標指標分野の改善状況及び目標達成状況>

	全体	① にぎわいの 創出	② 街なか 居住の推進	③ 経済活力 の向上	④ 公共交通の 利便の増進	⑤ その他
基準値より改善	23	13	5	2	3	0
（うち、目標達成）	14	8	2	1	3	0
基準値より悪化	10	7	3	0	0	0
合計	33	20	8	2	3	0
基準値改善率	70%	65%	63%	100%	100%	—
目標達成率	42%	40%	25%	50%	100%	—

$$\text{基準値改善率} = (A + \underline{a} + B + \underline{b}) / (A + \underline{a} + B + \underline{b} + C + \underline{c})$$

$$\text{目標達成率} = (A + \underline{a}) / (A + \underline{a} + B + \underline{b} + C + \underline{c})$$

<目標指標分野別基準値改善率の比較>



(注1) 取組の進捗状況及び目標達成状況の分類（P 1 参照）のうち、「基準値から改善したもの」はA、a、B及びbが、「基準値から改善していないもの」はC及びcが、それぞれ相当する。

(注2) 全目標指標のうちA、a、B及びbが選択された割合（基準値改善率）が70%であったため、これと比較して数値が大きい（小さい）場合には、「基準値改善率が全体平均よりも高い（低い）」としている。

Ⅲ. 計画期間終了後の中心市街地の状況

各市が市街地の状況や中心市街地活性化協議会及び市民の意見等を参考に、計画した事業が順調に進捗・完了したかどうか、また、中心市街地という単位で活性化が図られたかどうかについて総合的な判断を行った。

(1) 進捗・完了状況及び活性化状況について

- 対象11市（11計画）のうち全11計画について、計画した事業が概ね順調に進捗・完了したと判断している。
- 対象11市（11計画）のうち全11計画について、各市の自己評価により中心市街地の活性化が図られたとされている。

【進捗・完了状況】

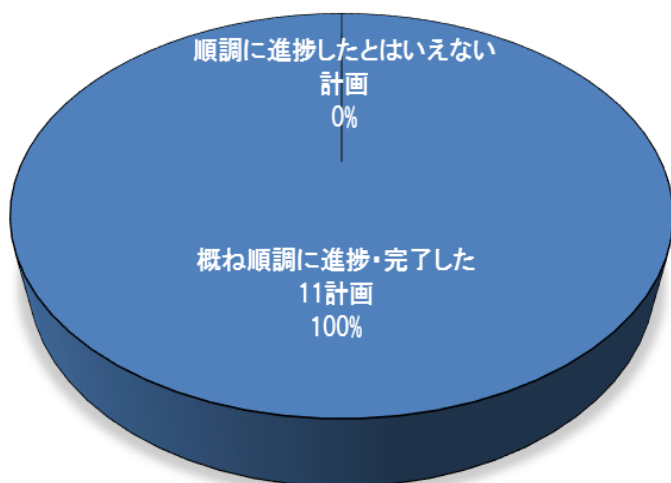
(計画期間終了後の状況)	概ね順調に進捗・完了した	順調に進捗したとはいえない
計画数(全11計画)	11計画	0計画

【活性化状況】

(計画期間終了後の状況)	かなり活性化が図られた	若干の活性化が図られた	活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)	活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)
計画数(全11計画)	2計画	9計画	0計画	0計画

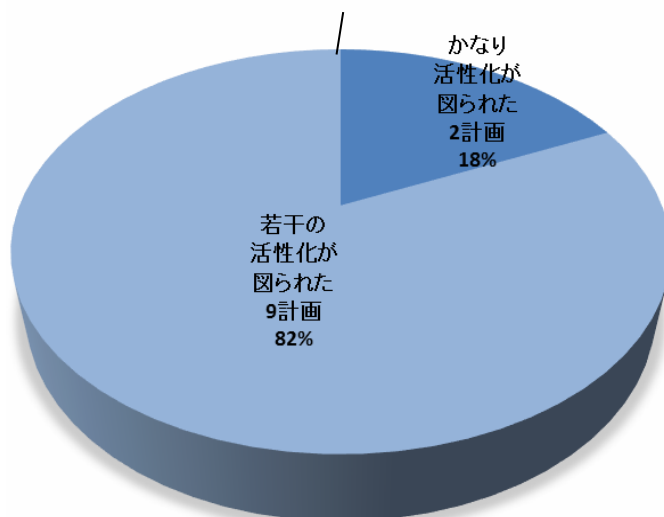
※計画した事業は予定通り進捗・完了したのか。また、中心市街地の活性化は図られたのかを個別指標ではなく中心市街地の状況を市が総合的に判断。

【進捗・完了状況】



【活性化状況】

活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし) 0%
 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化) 0%



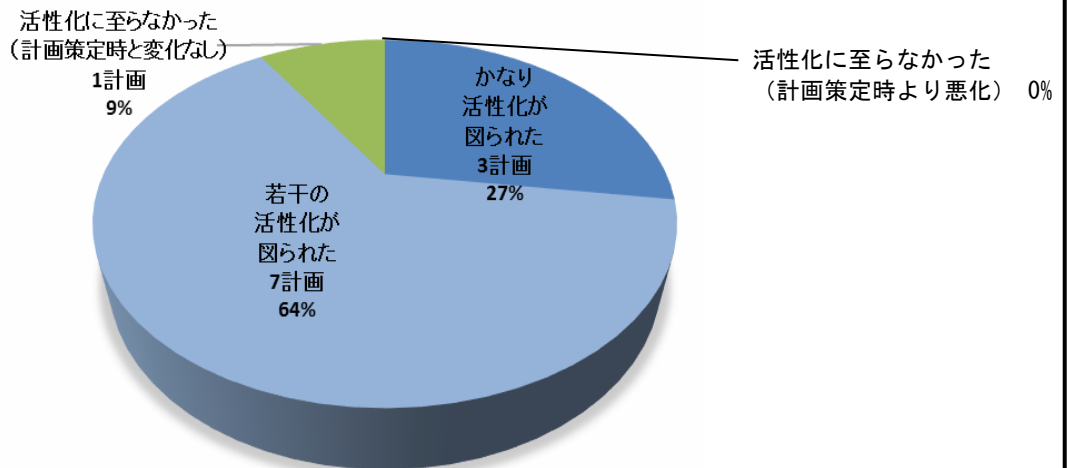
(2) 中心市街地活性化協議会の評価について

○ 対象11市（11計画）のうち10計画について、各市の中心市街地活性化協議会により中心市街地の活性化が図られたとされている。

【中心市街地活性化協議会としての活性化状況の評価】

(計画期間終了後の状況)	かなり活性化が図られた	若干の活性化が図られた	活性化に至らなかった (計画策定時と変化なし)	活性化に至らなかった (計画策定時より悪化)
計画数(全11計画)	3計画	7計画	1計画	0計画

※中心市街地という単位で活性化が図られたかどうかを中心市街地活性化協議会として判断。



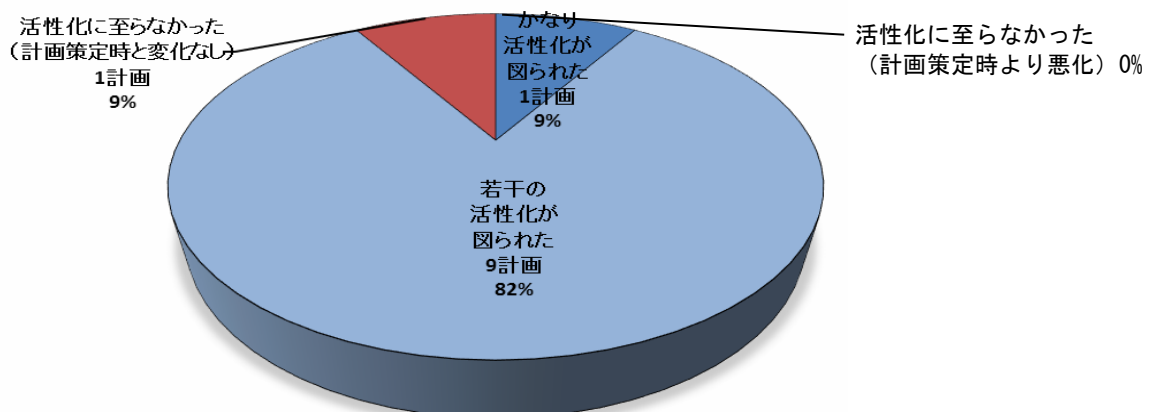
(3) 市民からの評価、市民意識の変化について

○ 対象11市（11計画）のうち10計画について、各市の市民により中心市街地の活性化が図られたとされている。

【市民からの評価、市民意識の変化について】



(計画期間終了後の状況)	かなり活性化が図られた	若干の活性化が図られた	活性化に至らなかった (計画策定時と変化なし)	活性化に至らなかった (計画策定時より悪化)
計画数(全11計画)	1計画	9計画	1計画	0計画

※中心市街地の活性化状況について市民意識調査等により市民の声を聴取し、市民意識の変化を総合的に判断。





IV. 好取組事例



① 歩行者通行量の増加に繋がっている事例

市町村名	熊本市(熊本県)【平成24年3月29日認定】	人口(平成27年国勢調査)	740,822人		
計画期間	平成24年4月～平成29年3月				
目標指標	中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量				
基準値	277,017人 (平成22年)	実績値	333,023人 (平成28年)	目標値	310,000人 (平成28年)
取組概要	<p>○平成28年4月の熊本地震後、消費マインドの低下や来訪観光客の減少の中、中心商店街や(仮称)花畑広場でのイベントの開催、熊本駅周辺地区におけるまちづくりの取り組みなどにより、歩行者・自転車通行量は増加し、目標を達成した。</p> <p>○桜町・花畑周辺地区や熊本駅周辺地区の再整備については、防災面からの機能強化を図り、災害に強い安全・安心なまちづくりを進めている。また、中心市街地においては、優れた交通利便性やこれまでに集積した都市機能を活かし、企業立地の推進を図った。</p> <p>○計画終了後も中心市街地活性化に向けて、以上のような取組を推進するとともに、計画期間中に発現した効果が持続しているか検証するため、目標指標の測定を継続的に実施していく。</p>				
					
	<p><イベントでにぎわう(仮称)花畑広場></p>		<p><暮らし・にぎわい再生事業(熊本駅前東A地区)></p>		

②施設入込数等の増加に繋がっている事例

市町村名	旭川市(北海道)【平成23年3月25日認定】		人口(平成27年国勢調査)	339,605人	
計画期間	平成23年3月～平成29年3月				
目標指標	観光情報センター利用客数				
基準値	50,922人 (平成20年)	実績値	81,291人 (平成28年)	目標値	60,000人 (平成28年)
取組概要	<p>○旭川空港の国際線利用者数が平成25年度に約10万人、平成26年度は約16万人、そして平成27年度は約19万人と急増したほか、中心部では、新たなホテルがオープンし、ホテルの年間稼働率が上昇するなど(平成27年度は約79%)、中心部の基盤整備や観光振興等に係る圏域・道北全体と連携したインバウンドの取り込みが一つの鍵となった。</p> <p>○総合観光情報センターを旭川駅に観光案内・バス待合・飲食などの機能をもった施設として移設したことで、利用者数は、平成20年度の50,922人に対し、平成28年度では、81,291人(うち外国人観光客30,000人超)に急増した。</p> <p>○更に、これらの好機を生かすように総合観光情報センターの運営や、旭川の魅力を存分に体感できる冬の観光コンテンツを充実させるとともに、北彩都ガーデンなどの観光資源や中心市街地でのイベントなどの連携により、来街者が増加し、目標を達成した。</p> <p>○今後は、中心部に生まれつつある人の流れを定着させるとともに、日常的に回遊、滞留する仕掛けづくりが重要となる。</p>				
					
	<p>駅前スケートリンク「ゆっきリンク ASAHIKAWA」 <旭川駅周辺土地区画整理事業></p>		<p><「北の恵み 食べマルシェ」開催事業></p>		

③施設入込数等の増加に繋がっている事例

市町村名	豊後高田市(大分県) 【平成24年3月29日認定】		人口(平成27年国勢調査)	22,853人	
計画期間	平成24年4月～平成29年3月				
目標指標	玉津地区“豊後高田昭和の町”高齢者交流施設入り込み客数				
基準値	7,031人 (平成22年)	実績値	10,111人 (平成28年)	目標値	10,000人 (平成28年)
取組概要	<p>○従前は郊外で実施していた元気な高齢者向けのデイサービス事業を、中心市街地の商店街に整備した高齢者交流施設『玉津座銀鈴堂』で実施することで、利便性が向上し利用者の増加につながった。</p> <p>○玉津座銀鈴堂では、高齢者だけでなく、あらゆる世代が利用できるコミュニティカフェの併設に加え、定期的なイベント「玉津プラチナ市」として、落語会、演劇、舞踊、津軽三味線のライブなどの各種催しを商店街の特別セールやフリーマーケットなどとあわせて開催することにより、集客強化が図られ、施設利用者の増加とともに、商店街の回遊性の向上につながった。</p> <p>○今後は、玉津座銀鈴堂を拠点に、商店主・地域住民等が開催しているイベント等と連携し、中心市街地にぎわい創出に向け、高齢者のみならず、あらゆる世代の来街を促す取組を進める。</p>				
					
	<p><元気な高齢者向けデイサービス事業～お化粧品講座～></p>		<p><恒例行事として定着したイベント『玉津プラチナ市』></p>		



④居住人口の増加に繋がっている事例

市町村名	金沢市(石川県)【平成24年3月29日認定】		人口(平成27年国勢調査)	465,810人	
計画期間	平成24年4月～平成29年3月				
目標指標	中心市街地の人口の年間社会動態				
基準値	26人 (平成19年～22年平均値)	実績値	102人 (平成24年～28年平均値)	目標値	35人 (平成24年～28年平均値)
取組概要	<p>○戸建て住宅・共同住宅の購入等に助成する「まちなか定住促進事業」の充実により、住宅着工のインセンティブとなったほか、金沢駅武蔵北地区第一種市街地再開発事業(第三工区)により住宅、商業施設の整備とシンボルロード等の主要公共施設を一体的に整備するなど、中心市街地の活性化が総合的に図られたことにより、目標値を上回る社会動態の増を達成した。</p> <p>○社会増減はプラスだが、自然増減を含めるとマイナスの推移を見せているため、今後も区域外からの定住増(特に若年層)を図っていくため、多様な都市機能を集積させ、まちなか居住のメリットを高めるとともに、住宅供給や公益施設の充実を図っていく。</p>				
					
	<p><金沢駅武蔵北地区第一種市街地再開発事業(第三工区)></p>		<p><片町A地区第一種市街地再開発事業></p>		

⑤ 空き店舗の減少に繋がっている事例

市町村名	長野市(長野県)【平成24年3月29日認定】	人口(平成27年国勢調査)	377,598人		
計画期間	平成24年4月～平成29年3月				
目標指標	空き店舗数(中央通り及び権堂アーケード沿いの1階部分)				
基準値	29件 (平成23年)	実績値	21件 (平成28年)	目標値	22件 (平成28年)
取組概要	<p>○中心市街地の1階部分の空き店舗等を活用して出店する事業者に対して、その空き店舗等の改修費等の一部を補助する「空き店舗等活用事業」を実施している。</p> <p>○事業者のニーズ等に応じ、補助対象物件に空き住宅、空き倉庫等を加えるとともに、一定のエリアにおいては補助限度額を引き上げるなど、より効果的な事業となるよう補助制度を見直しながら、当事業に取り組んだ。</p> <p>○当事業を契機として地元の商工団体、商店街団体等との関わりが生まれるなどの効果がある。今後も引き続き、空き店舗等の解消に向けた取組を実施していく。</p>				
					
	<p><当事業を活用して出店したフラワーショップ></p>		<p><当事業を活用して出店したレストラン></p>		

⑥ 公共交通機関利用者の増加に繋がっている事例

市町村名	富山市(富山県)【平成24年3月29日認定】	人口(平成27年国勢調査)	418,686人		
計画期間	平成24年4月～平成29年3月				
目標指標	路面電車市内線一日平均乗車人数				
基準値	11,022人 (平成22年)	実績値	13,889人 (平成28年)	目標値	13,000人 (平成28年)
取組概要	<p>○路面電車が新幹線高架下に乗入れを開始したことで、新幹線及び在来線との乗換利便性が大幅に向上し、利用者の増加に繋がった。</p> <p>○ガラス美術館や図書館本館等からなる「TOYAMA キラリ」を路面電車沿線に整備したことにより、市民が気軽に集い憩える施設として利用され、路面電車の利用者増加に繋がった。</p> <p>○中心市街地までの公共交通運賃を100円とする「おでかけ定期券事業」(65歳以上対象)の実施により、高齢者の公共交通機関の利用促進と外出促進を図り、中心市街地への来街者の増加に繋がった。</p>				
					
	<p><富山駅路面電車南北接続事業></p>		<p><おでかけ定期券></p>		

V. 取組の進捗・完了状況及び目標達成状況に関する各市からの報告

<取組の進捗・完了状況の分類>

- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えている。)
- a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績は目標値を超えている。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。)
- b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えたが、目標値には達していない。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。)
- c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値及び基準値にも達していない。)

<進捗・完了、活性化状況について、自治体、中活協議会、市民からの評価>

- ① かなり活性化が図られた
- ② 若干の活性化が図られた
- ③ 活性化に至らなかった (計画策定時と変化なし)
- ④ 活性化に至らなかった (計画策定時より悪化)

都道府県名	市町村名	目標	目標指標	自治体評価			中活協議会 評価	市民 評価
				評価 分類	進捗 完了 状況	活性化 状況		
平成23年3月25日認定								
北海道	旭川市	中心市街地に訪れる人を増やす	歩行者通行量(週末)	C	①	②	②	②
		中心市街地に住む人の増加を図る	まちなか居住人口(中心商店街地)	B				
		観光客の来街を促進する	観光情報センター利用客数	A				
平成24年3月29日認定								
富山県	富山市	公共交通や自転車・徒歩の利便性の向上	路面電車で市内線一日平均乗車人数	A	①	②	①	②
		富士らしさの発信と人の交流による賑わいの創出	中心商業地区の歩行者通行量(日曜日)	C				
		質の高いライフスタイルの実現	中心市街地の居住人口の社会増加	A				
富山県	高岡市	歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大	主要観光施設における観光客入込人数	B	①	②	②	②
		まちなか居住の推進	中心市街地における居住人口	C				
		中心商店街の賑わいの創出	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値	A				
石川県	金沢市	中心商店街の賑わいの創出	中心商店街(3商店街)における空き店舗数	B	①	①	①	①
		誰もが暮らしやすい中心市街地	中心市街地の人口の年間社会動態	A				
		にぎわいと交流が生まれる中心市街地	主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量	C				
長野県	長野市	にぎわいと交流が生まれる中心市街地	中心市街地の観光施設の利用者数	A	①	②	③	③
		過度に自転車に依存しない中心市街地	公共レンタサイクル「まちのり」の利用回数	A				
		訪れたいまち	善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量	A				
岡山県	玉野市	住みたいまち	長野市全体における中心市街地の人口割合	B	①	②	②	②
		歩きたいまち	中心市街地(中心市街地6地点)の歩行者・自転車通行量	C				
		歩きたいまち	空き店舗数の減少	A				
福岡県	飯塚市	歩きたいまち	もんぜんぶんら座及び生涯学習センター年間利用者数	B	①	②	②	②
		魅力ある商業環境が支える賑わいと憩いのあるまちの創出	中心市街地の居住人口の社会増加	C				
		人と人との繋がりによる笑顔で暮らせるまちの創出	中心市街地内の歩行者通行量	C				
熊本県	熊本市	人々が活発に交流しにぎわうまち	中心市街地内の居住人口	B	①	①	①	①
		城下町の魅力があふれるまち	歩行者通行量(平日・日曜の平均値)	A				
		誰もが気軽に訪れることができるまち	熊本城入園者数	C				
大分県	豊後高田市	いとおしく懐かしいおまち-飛躍-	市電利用者数	A	①	②	②	②
		高齢者楽しいおまち-進化-	昭和の町の観光入り込み客数	B				
		市民がうれしいおまち-創造-	高齢者交流施設入り込み客数	A				
平成24年11月30日認定								
山形県	山市	市民及び観光客の回遊促進・書店街の利用促進による賑わい創出	歩行者通行量(休日)	C	①	②	②	②
		市民及び観光客の居場所づくり・市民活動の拡大による賑わい創出	まちなかの交流施設利用者数	B				
宮崎県	日南市	来て良かった、また来たいまち	1日平均歩行者・自転車通行量	B	①	②	②	②
		住みたい、住み続けたいまち	中心市街地の定住人口	C				